

バロックの鬼才エンリコオノフリ指揮

ハイドン フィルハーモニー 衝撃の運命

HAYDN PHILHARMONIE 2023

Enrico Onofri, conductor
Ludwig van Beethoven
Schicksalssinfonie

©Niklas Schnaubelt



ベーゼンドルファー・アーティスト
ピアノ独奏 久元 祐子

©武藤 章

ミヒャエル・ハイドン
交響曲第39番
ハ長調 P. 31 (MH 478)

W.A. モーツァルト
ピアノ協奏曲第9番「ジュナミ」

L.v. ベートーヴェン
交響曲第5番「運命」



ハイドンフィル・ミュージックパートナー
エンリコ・オノフリ [指揮]

2023 7.2 日 14時開演
13時15分開場
紀尾井ホール

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6-5 ☎03(5276)4500

チケット
(全席指定/税込)

一般: S席 10000円 A席 7000円
学生・小学生以上 25歳以下: 4000円

〈販売・お問合せ〉 プロアルテムジケ 03(3943)6677 www.proarte.jp
チケットぴあ [Pコード 238-705] t.pia.jp イープラス(e+) eplus.jp

交響曲の父・ハイドンが生涯楽長をつとめ、ハプスブルク帝国、オーストリア＝ハンガリー帝国激動の時を超えて保存されるつづけるヨーロッパの至宝エスターハージ城を本拠地とする〈ハイドン・フィルハーモニー〉。巨匠アダム・フィッシャーが東西の平和を願って復活させた響きは2009年に初来日。2018年にはフィッシャーの後継でチェリストのニコラ・アルトシュテットが率い、クラシック音楽の未来を予感させる衝撃的なモーツァルト、ハイドンのパフォーマンスで話題になりました。2023年は世界最高のバロック・ヴァイオリンと称されるイタリアの鬼才エンリコ・オノフリのもと、さらに日本のモーツァルトのスペシャリスト久元祐子を迎え、三度目のインパクトをもたらすことでしょうか！

特別協賛

ベーゼンドルファー・ジャパン **Bösendorfer**

後援

オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京

日壊文化協会

主催 プロアルテムジケ **PRO ARTE MUSICA E**

tyo ökf

©Chico De Luigi



エンリコ・オノフリ [指揮]

©武藤 章



久元 祐子 [ピアノ]

ハイドン フィルハーモニー

HAYDN PHILHARMONIE 2023

2023 **7.2** 日 14時開演 13時15分開場

紀尾井ホール



最寄駅

- 四ツ谷駅 麴町口 (JR線・丸ノ内線・南北線) 徒歩6分
- 麴町駅 2番出口 (有楽町線) 徒歩8分
- 赤坂見附駅 D出口 (銀座線・丸ノ内線) 徒歩8分
- 永田町駅 7番出口 (半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分

14歳にして初めてヴァイオリンを手にし、すぐにアーノンクールよりコンツェントウス・ムジクスに招聘される。その後22歳でJ・サヴァールの楽団のコンサートマスターに抜擢。20歳よりイル・ジャルディーノ・アルモニコのソリストを務めているが、同楽団の有名な録音〈ヴィヴァルディの四季〉のソロは、彼が若干26歳の時のものである。

その後イタリアバロックを中心に、ソリストとしてのオノフリの名声はヨーロッパ中に知れわたり、近年はベルリン古楽アカデミー等欧州各国の古楽演奏団体や、リヨン国立歌劇場等モダン・オーケストラにも頻繁にソリスト、指揮者として客演している。

自身のソロ活動としては「アンサンブル・イマジナリウム」を立ち上げ、2010年にロンドンで行った演奏会は英テレグラフ紙の「2010年クラシック公演」で第1位を獲得、19年にリリースされた録音〈17世紀イタリアの技巧的ヴァイオリン〉も強烈な演奏が高く評価された。ハイドン・フィルハーモニー首席客演指揮者。

ウィーン放送交響楽団、ラトヴィア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・サロン・オーケストラなど、内外のオーケストラと多数共演。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。2011年ベーゼンドルファー・アーティストの称号を授与される。イタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれ、リサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。

2016年～22年、モーツァルト・ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズを開催。CD16作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は(レコード芸術特選盤、毎日新聞CD特薦盤)に選ばれ、「ベートーヴェン“テレーゼ”“ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。著書に『モーツァルトのピアノ音楽研究』(音楽之友社)など。東京藝術大学音楽学部(ピアノ専攻)卒業、同大学大学院修士課程を修了。現在、国立音楽大学・大学院教授。



オーストリアのアルプス山脈で新月の晩に伐採される樹齢90年の木々。ベーゼンドルファーはこの木々から生まれた名器です。〈280VCピラミッド・マホガニー〉は、木のエネルギーと自然の風合いを直に感じる事が出来る最高傑作。このオンリーワンのピアノで、モーツァルトがザルツブルク時代に書いた傑作「ジュナミ」を演奏し、みなさまと共有できる幸せに感謝しています。

久元 祐子